

知事が訪問！ 県内企業の魅力発信事業

河野宮崎県知事 × 株式会社ユニフローズ



株式会社
ユニフローズ 森川秀行社長

河野 俊嗣 宮崎県知事

株式会社ユニフローズ・宮崎工場は 2013 年宮崎県から立地企業として認定を受け設立。2019 年 7 月 4 日、立地企業へのフォローアップ活動の一環として県が実施している「知事が訪問！立地企業の魅力発信事業」により河野宮崎県知事との対談が実現しました。

**”個性あるオンリーワン製品”
お客様が本当に喜ぶ商品
を作り続けたい。**

株式会社ユニフローズは、清流のほとり、自然環境豊かな『東京都あきる野市』及び『宮崎県高鍋町』に立つ、「環境配慮型」の企業です。液体の計量・送液・分析等に特化し、医用機器・理科学機器・省力化機器等の設計・製造・販売を手掛け製品の高性能化・小型化・軽量化を通して、“人と環境に優しいものづくり”を追求しています。

◆ **河野宮崎県知事（以下河野知事）：**

本事業に申し込んでいただきありがとうございます。この事業は、県が認定した立地企業の魅力を発信することを目的としているので、これから御社についてのお話をお聞かせいただけたらと思います。

■ **森川秀行社長（以下森川社長）：**

本日は、私どもの工場・社員や仕事の様子を見ていただき、未来への思いやどんな取組をしているのかご理解いただけたらと思います。



調達部品と内製部品

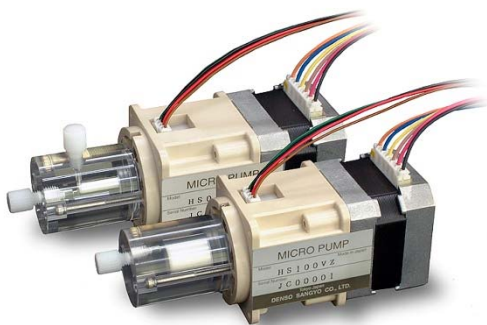
◆ **河野知事**：部品調達は東京からですか。

■ **森川社長**：一番の課題は、地元での部品調達です。県北の工業地域等から部品調達する考えでしたが、当社の特性に合った加工のできるところがあまりありませんでした。そのために「ものづくり補助金」制度を利用して設備を導入し、安定した部品調達のために内製化を進めました。理想は周囲に部品調達できる会社があると良いのですが。

精度が求められるものづくり

◆ **河野知事**：どのようなところで使われている製品なのですか。

■ **森川社長**：例えば、私たちが作っている計量用ポンプは血液分析装置などに組み込まれています。微量の検体や試薬を計量して送



り出すという、装置の心臓の役割をしていますので、常に高い精度が要求されます。大手メーカーへの納品が多く、国内の医療用シェアは70%ほどです。

◆ **河野知事**：圧倒的なシェアですね。

子どもに科学の面白さを伝える

■ **森川社長**：近年は小学生の理科離れが激しいと感じています。小学生の時から興味を持ってもらうため、飲み物や食べ物の中には何が入っているのかを正確に測定する装置、「教育用 e-HPLC ことり」(右図)の開発も行っています。



◆ **河野知事**：どうすればどのようなものが入っているか分かるのですか。

■ **森川社長**：測定したい液体を装置に注入すると、結果としてたくさんピークが出てきます(「図.飲み物の分析例」参照)。この分析結果と成分ごとのピークデータを比較することで調べたい成分がどれだけ含まれているか測定できます。

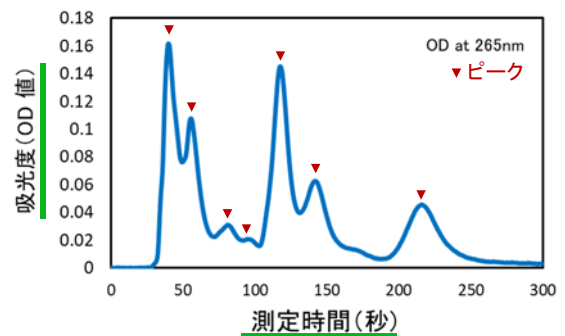


図. 飲み物の分析例

◆ **河野知事**：縦軸の吸光度 (OD 値) とは何ですか。

■ **森川社長**：サンプルに光を当て、その光がどれだけ吸収されたかを示しています。吸光度の数値が高いほどサンプルに含まれる成分の濃度が高いことがわかります。

◆ **河野知事**：横軸の測定時間は何ですか。

■ **森川社長**：サンプルに含まれる成分が検出された時間を示しています。

◆ **河野知事**：成分によって出てくる時間が違うわけですか。

■ **森川社長**：そうです。カラムという部分を通過させることで検出時間に差が出るようにしています。カラムは障害物競走に例えると、障害物にあたるものです。競技者は一斉にスタートしますが、障害物を通りやすい小さい人、すばしっこい人が先に出てきますよね。同じように、カラムを通過しやすい性質の成分はすぐに出ますが、通過しにくい性質の成分は遅れて出てきます。

◆ **河野知事**：ふるい分けされて出てくるのですね。

■ **森川社長**：この原理を利用した分析装置は身近なところでも使われています。しかし、子どもたちが分析装置に直接触れる機会はないのではないかと感じていました。



◆ **河野知事**：この装置の目的はお子さんに使ってもらうことですか。

■ **森川社長**：そうです。一番は子どもに使ってもらうことです。次に企業に使ってもらえたらと考えています。まず、学校での教育を目指しているので音が静かです。子どもが飽きないように5分程度で分析結果を出したいので流量を徐々にスピードアップさせる工夫を組み込みました。

宮崎県を選んだ理由・高鍋町を選んだ理由

◆ **河野知事**：説明を受けながら圧倒されています。たくさんの特許証もあり、素晴らしい技術をお持ちなんだと改めて感じており



ます。御社は1985年に現在の東京都あきる野市に設立されてから、2013年に宮崎県で立地企業の認定を受けておられますが、どういふところから宮崎とのご縁ができたのかお聞かせ下さい。

■ **森川社長**：縁と言いますと、私が宮崎県の出身ということですから。それから企業誘致のコーディネーターの方から紹介がありました。私の関係者が宮崎市にもいますし、延岡市にもいます。その中間地で便利が良いということで高鍋町を選びました。高台で自然災害に強いこともこの場所を選んだ理由の一つです。

◆ **河野知事**：交通の便はどうですか。

■ **森川社長**：宮崎空港まで一般道でも1時間、それに高速道路も開通しており、問題はありません。

◆ **河野知事**：先ほどから色々な機器を見せていただいて、一般に馴染みがないのは、我々が接する機械の中心部は表から見えないからなのですね。この機器を納めておられる企業というのは医療機器なり分析機器を作られるメーカーということですか。

■ **森川社長**：ほとんどの日本のトップメーカーに納入しています。

東日本大震災の影響を受けて

◆ **河野知事**：取引先のメーカーと言うのはほとんどが大都市部に存在しているのではないかと思います。そうするとその近くの方が立地先としては良いということはありませんか。

■ **森川社長**：私たちが扱う商品はサイズが小さく、宅配便で送ることができますからそれほど場所にはこだわっていません。この場所を選んだもう一つの理由は、東京からすごく離れているということです。東日本大震災の時には東京も被害を受けました。近いところも候補地はあったのですが、あえて離れているところを選びました。

◆ **河野知事**：リスク分散ということですね。

■ **森川社長**：そうですね。あえて離れている自分の出身地にしました。

本社・東京工場と宮崎工場の機能について

◆ **河野知事**：東京の本社とこちらの宮崎工場との役割分担はどうされておられるのでしょうか。

■ **森川社長**：両方の工場で同じものが作れるようにしています。どちらかの工場に何かあったとしても生産が止まらないようにしています。ただ、その中でも宮崎工場では生産量の多いもの、東京工場では少量でも多品種を手掛け、開発や軌道に乗る前の商品も扱っています。

◆ **河野知事**：試験・研究機能、開発機能というのは東京の方でしょうか。

■ **森川社長**：現在は東京なんですけれども、将来的には両方の工場に同じ機能を持たせたいと思っています。

流体を扱う仕事のトップを目指して

◆ **河野知事**：その為にも、人材の確保というのが非常に大きな課題だと思うのですが、そういった面ではどうお考えでしょうか。

■ **森川社長**：人材確保の期待は大きいです。しかし、まだ我々の PR が足りなくて、宮崎県の皆さんに会社を認知してもらうのに時間

がかかっていますけれども、頑張っって人材を雇っていきたいと思います。

◆ **河野知事**：先ほども伺いましたが、7割のシェアを持つ素晴らしい製品を作っておられる非常にやりがいのある仕事だなと思いますが、会社名を覚えてもらうのは、学生やその保護者を含めなかなか難しいものがありますよね。

■ **森川社長**：

そうですね、会社



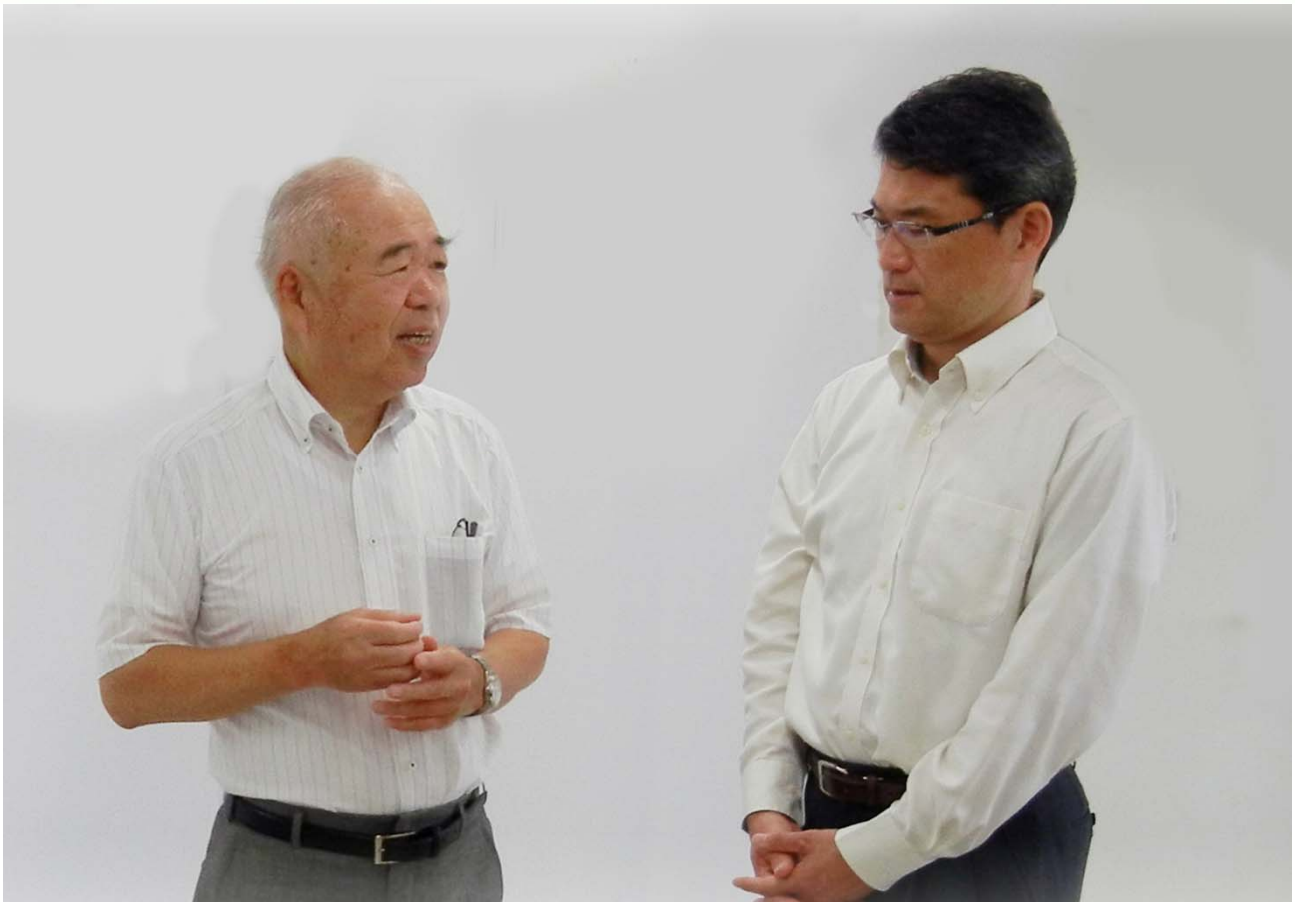
社を作って 20年くらいまでは英語の名前の会社はほとんどありませんでした。それで皆さんから「お宅は何の会社？」とよく言われました。それと、会社名が英語なのでやっている仕事が難しそうだと言われました。名前を聞いただけで敬遠されることもありました。

◆ **河野知事**：会社のお名前はどのようなところから付けられたのですか。

■ **森川社長**：「ユニフローズ」は、「ユニ」の“一つ”と「フロー」の“流れ”を合わせて名付けました。この社名には、流体を扱う仕事を通して、世界で一番になるんだ、という想いを込めました。どんな分野でも専門に特化した業界というのは競合が少ない代わりにトップの企業が全世界のシェアのほとんどを占めることとなります。次の二番、三番以降はすごく仕事がしづらくなります。ですから一番を目指ししかなくなるのです。

◆ **河野知事**：高度な技術が必要なのだと思いますが後から追いかけてくるといいますか、ライバル社もあるのではないですか。

■ **森川社長**：それはありますが、仕方がない。一社だけですと技術が停滞してしまいますから。一番であったとしても、さらに走り続けなければなりません。真似されたとしても、それに負けないよう努力するしかないと思っています。



◆ **河野知事**：素晴らしいと思います。この宮崎工場では県内の方ばかりということですが働いている皆さんは若い方が多いですね。そういった面では、人材確保のご苦労というのはこれまでもあったと思いますが、若い世代に会社の将来を担ってもらいたいという希望があるのでしょうか。

■ **森川社長**：おかげさまで今のところは地元採用の社員が頑張っています。将来的にも層を厚くしてより発展させていけるように取り組む必要があると考えています。

◆ **河野知事**：会社の魅力を知っていただくという取組の方はどうですか。

■ **森川社長**：我々の会社が一番楽ですよ、と言います。野球とかサッカーとか華やかであこがれますよね。ところが第一線でプレーする人の比率はものすごく低いですよ。

◆ **河野知事**：一握りの人ですね。

■ **森川社長**：我々と同じ仕事をするのは日本でも数社、全世界を見ても数十社しかいな

いので、その中で競争すれば日本一、世界一になるのがすごく楽しみですということです。

◆ **河野知事**：競争相手の数だけでしたら少なく感じますが、非常に高いレベルの話ですね。

理科離れに一石を投じる

◆ **河野知事**：県内の学校へは働きかけとか情報提供などは行っていますか。

■ **森川社長**：まだこれからです。去年11月に「ことり」を発表しまして、関東では夏休みこども教室などで、理科学装置を使った分析を体験してもらう活動をしています。弊社にあきる野市内の小学生と保護者の方を招待したり、工学院大学の「わくわくサイエンス祭科学教室」では二日間にわたって200名ほどの方に装置を使ってもらいました。

◆ **河野知事**：面白そうですね。県内でもぜひこういう取組をしていただきたいと思いません。

■ **森川社長**：間に合えば今年、来年あたりから参加させていただきたいです。高鍋町や学校などで他にもイベントがありましたら参加させていただきたいです。

◆ **河野知事**：「みやぎテクノフェア」などもありますね。

■ **森川社長**：そういうところにも参加できればなと思います。最近では子どもの理科離れが激しくて、我々の欲しい人材がいないんですよ。それで気長に我々の会社に入ってもらえるような人材を子どものうちから育てていきたいと思っています。

◆ **河野知事**：小学生のうちからというイメージですか。

■ **森川社長**：小学校 2～3 年生くらいの子どもが一番興味を持ちます。それから、保護者の方が「自分たちは大学に入るまで分析装置に触らせてもらうことがなかった。それが小学生の時から触らせてもらえるなんて」と感激されていました。イベントでは子ども向けの製品を展示したいと思っています。「ことり」のような分析装置は高精度の部品の集合体なので、低価格では作るのが難しい上に、利益を上げるのが大変なんです。それをあえてやっっていこうとしています。

◆ **河野知事**：素晴らしい事業展開ですし、せっかく高鍋町・宮崎県に立地をいただいて、志を持って製品を作っていただいている。それを伝えるお手伝いを我々としてもしていかないといけない。またそれが人材確保にもつながることです。これからも高鍋町だったり、教育委員会、大学と連携しながら取組に協力していきたいと思っています。

本日はお忙しいところありがとうございました。

■ **森川社長**：こちらこそ、このような機会を頂きましてありがとうございました。

会社概要：

社名	株式会社ユニフローズ Uniflows Co., Ltd.
設立	1985（昭和 60）年 2 月 宮崎工場：2013（平成 25）年 4 月
東京本社	東京都あきる野市 山田 405-3
宮崎工場	宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋字雲雀山 11030-1
資本金	4,000 万円
代表者名	代表取締役 森川 秀行
従業員数	53 人（東京 30 人、宮崎 23 人）
生産品目	流体を扱う理科学機器、 医用機器等

アクセス：



<東京本社>

圏央道 あきる野 IC から
車で 10 分
五日市線 武蔵増戸駅から
徒歩で 10 分



<宮崎工場>

宮崎空港から車で 60 分
宮崎空港駅から高鍋駅まで
特急で 30 分
高鍋駅から車で 10 分

公式サイト：<http://www.uniflows.co.jp/>



イメージキャラクター
カワセミの「カックン」



<http://www.uniflows.co.jp/>